

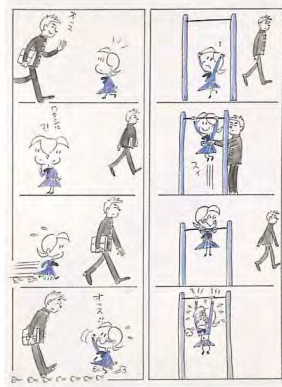
小さな恋のものがたり

みつはしちかこの世界展

今日、日本のマンガは、多彩な描写とストーリーで世界に冠たる表現性を獲得してきたといえます。なかでも52年もの長きにわたって普遍的なテーマに真摯に取り組んできたマンガ家が〈みつはしちかこ〉です。彼女が描く『小さな恋のものがたり』は、ちんちくりんの子高生「チッチ」とノッポでイケメンの「サリー」が織りなす淡くせつない恋心を描いた純愛学園ストーリーです。二人の純粋な片思い（作者談）の物語は、青春の甘くせつない思い出として多くの読者の共感を呼び、今なお愛されている不朽の名作です。

チッチのひた向きな姿と爽やかでユーモアに満ちたストーリーもさることながら、作中に添えられた詩と絵のハーモニーも作品を印象づける魅力として、幅広い世代に愛される一因となっています。

2014年、惜しまれながら最終巻を迎えた『小さな恋のものがたり』ですが、本展ではこの『小さな恋のものがたり』を中心に、『ハイあっこです』『わたがしふうちゃん』など、〈みつはしちかこ〉がこれまでに描いたマンガ作品をたどりながら、彼女の活動を振りかえるとともに、マンガに込めた思いを探ってみたいと思います。



4

3

2

1



6

5



9

8

7



10

みつはしちかこ

1941年、茨城県生まれ。幼いころから絵や詩、漫画に親しむ。高校卒業後、放送劇部時代の漫画日記をもとに四コマ漫画『小さな恋のものがたり』を描きため、雑誌美しい十代』（学研）でデビュー。同作は1977年に日本漫画家協会優秀賞を受賞、単行本第43集（2014年終刊）まで続くロングセラーに。1980年から22年間、朝日新聞日曜版で『ハイあっこです』を連載。ほか、エッセイ、詩画集など著書多数。2015年、50年を超える功労が認められ、手塚治虫文化賞特別賞、日本漫画家協会文部科学大臣賞を受賞。現在は『栄養と料理』（女子栄養大学出版部）と『俳壇』（本阿弥書店）で連載中。

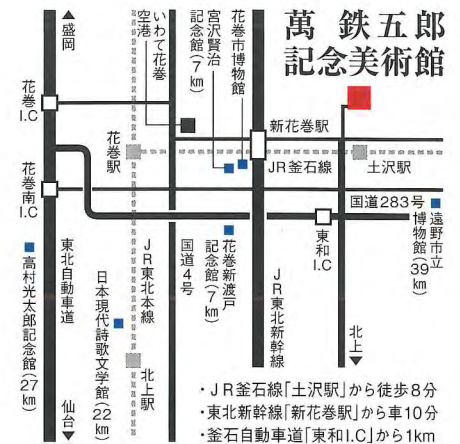


1. 『ちびこの詩集』より インク・紙
2. 〈鉄棒〉(オッス!)『小さな恋のものがたり』第1集より インク・紙
3. 〈サリーの告白〉『小さな恋のものがたり』第43集より マーカ・紙
4. 〈雪の綿毛〉『いつかどこかで』1975年冬号表紙 水彩・紙
5. 〈コンニチワ〉『いつかどこかで』表紙 水彩・紙
6. 〈春の丘から〉『小さな恋のものがたり』第23集より 水彩・インク・紙
7. 『草むらのちいちゃん』扉絵 水彩・インク・紙
8. 『アララさん』2巻表紙 水彩・紙
9. 〈ママはタローのもの!〉『ハイあっこです』6巻より 水彩・インク・紙
10. 〈サクラランボの食べ方〉『わたがしふうちゃん』1巻より 水彩・インク・紙

©Chikako Mitsuhashi

◎入館料

- 一般 / 600(550)円
- 高校・学生 / 350(300)円
- 小・中学生 / 250(200)円 * ()内は20名以上の団体料金



●みつはしちかこ握手会 7月17日(日) 14:00~ 整理券配布期間:6月28日(火)10:00~7月8日(金)17:00

9月4日(日) 14:00~ 整理券配布期間:8月2日(火)10:00~8月12日(金)17:00

※いづれも先着50名になり次第切ります。※都合により、予告なくイベントを中止させていただく場合がありますのでご了承ください。

●主催・会場 萬鉄五郎記念美術館

●後援 岩手日報社、岩手日日新聞社、盛岡タイムス社、河北新報社盛岡総局、朝日新聞盛岡総局、毎日新聞盛岡支局、読売新聞盛岡支局、日本経済新聞社盛岡支局、産経新聞盛岡支局、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、花巻ケーブルテレビ、エフエム岩手、ラヂオもりおか、奥州エフエム、えふえむ花巻

萬鉄五郎記念美術館

〒028-0114 岩手県花巻市東町土沢5-135
TEL.0198-42-4402 FAX.0198-42-4405